

越廼地区

福祉の充実と地域づくり

越廼地区社協は、平成の大合併で村社協から活動を引き継ぎ、今日に至っています。

人生100年時代、いつまでも生きがいを持って充実した生活を過ごすため、地域福祉の手厚い支援が求められています。

そこで当地区社協では、3つの柱で地域福祉を進めています。

1 ひきこもりや孤立を防ぐ事業では、高齢者の多くがデイホームやグラウンドゴルフに集い、健康増進と地域の活性化に努めています。

食事サービスは、地区独自に、75歳以上の二人暮らしや親子世帯にも提供し、見守り活動や安否確認も行っています。

一人暮らしの方には、温泉で日帰りの研修交流会を実施し、生活や健康不安等の相談にも対応しています。



世代間交流 救急救命AED体験

- 2 世代間交流事業では、
- 児童クラブ
- と民生委員
- 児童委員、
- 福祉委員、
- 老人クラブ



豪雨災害義援金贈呈 (福井市社協で)



(複合福祉拠点施設) 越廼地区社協事務所風景

越廼地区社会福祉協議会

と保育園児が、防災やAEDの学習と昔遊びやパンづくりなどの体験で交流を深めています。

3 災害に備えた事業では、地区社協と特養「こしの渚苑」が相互応援協定を結んでいます。合同訓練では、リフト車を使って障がいのある方の避難や、避難者用のベッドメイキングを日赤奉仕団の協力で行っています。

今後も誰もが安全で安心できる住み良い地域づくりに邁進してまいります。

酒生地区

ささやかな見守り活動!

田園が広がる酒生地区では、年々高齢化が進行し、交通の便も悪く気軽に買い物できるお店もなく、高齢者にとっては寂しいばかり...

「デイホームで「どこへも行かれんし、寂しきどもならん」「もっとでさんのか?」との声に、自治会の協力を得て「おより茶屋」が誕生しました。

月一回の開店日には「ありがとうのー」「私も来たわのー」といつもの笑顔が見られ、ほっと安心。

内容は何でもござれ。野菜作りの話・折り紙・脳トレゲーム・おやつ作りなど、おしゃべりに毎回満開の花が咲きます。町内の有志による歴史や酒生遺跡の話も大好評でした。三周年にみんなで手作りした看板も、毎回開店日にみんなをお迎えしています。

来ない人がいると「○○さん、今日忘れてるんかな」「娘さんと買い物に行っただ」などの声も聞かれ、みんなで見守りをしていることに気が付かれました。

道端で顔を合わせると「今度いつやったっけ」「うちのやつ、楽しみにしてるんや、明るくなって喜んで



「私も行ってみたいか」と来店する方もいて、町内みんなでの見守りができていると感じています。できれば寂しがり屋の男性の来店があればもっと安心できるのかも、と思います。

酒生地区社会福祉協議会

